

令和元年度第4回桑名市地域福祉計画策定委員会 議事録（要点録）

日 時 令和2年3月11日（水）13:30～14:35

場 所 桑名市パブリックセンター 2階 大研修室

出席委員 長谷中委員長、高橋副委員長、山中委員、浜島委員、佐藤（美）委員、藤原委員、
細井委員、川瀬委員、佐藤（美）委員、渡邊委員、加藤委員（10名）

欠席委員 城野委員、伊藤委員、川瀬委員（3名）

傍聴者 1名

1. 開会

2. 議事

（長谷中委員長挨拶）

今回がこの策定委員会の最終回になる。今日出た最終案をもとに皆様にご検討いただいた後、市長に報告していただき、最終的に計画が確定する形になるのでどうぞよろしくお願いする。なお、新型コロナウイルス感染症対策が必要。本日は、長時間にならないように議事を簡潔に進めながら配慮して参りたいと思うので、協力よろしくお願いする。また、本日で東日本大震災から9年が経った。震災で大勢の方が被災され、犠牲となった。現在でも行方不明の方が大勢いらっしゃる。全国的に避難生活を余儀なくされている方もまだまだ沢山おられる。今日は、その方々一人ひとりに、少しだが心を込めて、そして思いを寄せながら議事を進めて参りたいと思う。どうぞよろしくお願いする。

(1) 桑名市地域福祉保健計画の最終案について

※資料に基づき事務局説明 桑名市地域福祉保健計画案

（長谷中委員長）

先ほどの事務局の説明に基づき、計画について意見等ございましたら挙手をさせていただければと思う。可能な限り最善を尽くして、色んな方からの意見を反映してきた。この計画の基本理念を包括的なものにして、切れ目のない支援に向けて、色んな分野の垣根を越えて繋げていくという指針で、市民や色んな専門家の方の意見、そして前回の策定委員会からのパブリックコメント、議会にも説明いただき、意見を伺って参った。それぞれの立場からの気になることでも結構。あるいはご希望でも構いません。何なりとおっしゃって

いただければと思う。この会で策定委員の皆様から、計画はつくるだけではなく、この後動かしていくことが大事だという意見を賜った。計画に関して、事務局で社協、行政と一緒にやりながら、今後推進、展開して行くためにまとめていただいた。最後のところで報告があるかと思うが、推進に向けての評価を図っていくための資料もつけていただいた。地域福祉保健計画の今までしてきた市民の活動、取組を支え、環境を整備していこうではないか。「互助・共助」という言葉の定義の確認をしておく、先ほど事務局から説明があったとおり、大きく4つに分ける場合と、3つに分ける場合がある。できるだけ誤解を招かないように、言葉も丁寧に使っていこうということで修正をかけていただいた。4ページの、高齢者の介護保険のところ、4つに分ける場合が出てきて、ややこしくなったのだが、「自助」「互助」「共助」「公助」とあり、住民の取組は「互助」となる。従来の伝統的な分け方だと3つで、「自助」「共助・互助」「公助」となり、3つか4つになる。この中の4つでいうと、「互助」も大事になってくる。市民会議で、これまでもこれからもこれを大事にしていこうということ。市民会議のところでも文言の充実を図っていただいた。今回の計画でも構いません。今後のことでも構いません。何か気になること、意見はあるか。

(高橋委員)

少し気になることを意見として出させていただく。この案の89ページ「(2) これからの推進体制」について、これまでの3期の市民会議に関わってきて、少し文言が分かりにくいと思う。2段落目の、「そこで、市民会議のメンバーが、それぞれ関心のあるテーマや・・・」について、意味としてはよく分かっているのだが、この「市民会議のメンバー」というのが、これまでの人を指すのか、これから4期でやっっていこうと募った組織、メンバーなのか少し分かりにくいと思う。全体としてはこれから考えることだろうと思っているのだが、ここのところで、例えば、各ボランティアさんや色んな団体さんがいて、だれがどのように組織をまとめていくのかが見えた方が良く思う。4期で新しくつくっていく、というところをもう少しここで出すと、「これからもっとよくなるんだ、もっといいものにしたい」と皆さんモチベーションが上がってくるかと思う。事務局の方でお考えいただければと思う。

(長谷中委員長)

とても大事な指摘。少し曖昧なところがあるのではないかという意見だと思う。その辺り、補足なり、少し検討いただければと思う。その他にいかがか。前回もそうだが、住民の活動だけではなく、公的な支援も充実を図っていこうではないか、従来の地域福祉計画と比べて公的なサポートも充実、強化を図っていくのが今回の計画の特徴。これまで以上

に包括支援センターの役割が大きくなってくると思う。佐藤委員、この計画に関しての意見でも構いませんし、今後のところで何か行政や社協に期待すること等でも構いません。何か意見をいただければと思う。

(佐藤(美)委員)

前回、話しをさせていただいて、地域包括ケアシステムの深化・推進、徘徊SOS、地域を見守るネットワークの充実、そして相談支援のところに「地域包括支援センター」と入れていただいたので、とてもありがたいと思う。今、桑名市は、福祉なんでも相談センターというのが、大山田のコミュニティプラザに1か所ある。今の時代の流れから、赤ちゃんも、障がいも、高齢も全てまとめて、色んな相談窓口ということで、現在は、大山田にあるコミュニティプラザでやってもらっているのだが、3月の議会にかけて、上手くいけば、多度、長島も福祉なんでも相談センターのような機能を設置する、という話が出ている。最近、高齢者のお宅を訪問する際、50代の引きこもりだったり、離婚した後に一緒に逃げて親の年金で生活しているという方が凄く多いと感じている。なので、ここに入れてもらってありがたいと思って読ませていただいた。

(長谷中委員長)

前回、言っていた、48、49ページですね。「地域包括ケアの深化」のところで、垣根を越えたネットワークを強化していこうではないか。制度上は、現在は、高齢者を対象とした地域包括ケアシステム。それだけではなく、対象をもっと拡大して、全ての人に向けた地域包括ケアの仕組みをつくっていこうではないか。そういう意味では、地域包括ケアセンターの役割が大きくなっていく。他にいかがか。

(高橋委員)

91ページ「(2) 社会福祉協議会による地域福祉活動計画の策定」の一番下だが、「独自に桑名市地域福祉活動計画を策定することとしました」について、社協さんが独自につくる、ということについて、これは市の計画。それが、活動としては社会福祉協議会が独自につくるという表現が、一体化していないと感じるが、どうか。

(長谷中委員長)

91ページのところで意見をいただいた。今回の計画は従来と同様に、行政とともに社協が一体となって、策定、推進に向けて取り組んでいる。その中で、91ページで事務局からも説明があったように、従来の計画同様、社協さんと行政が一体となるところは変わらず、より、社協の取組の強化を図っていこうではないか。また、活動計画を策定することによって、さらに計画の推進の強化を図っていこうではないか。そういうことが91ページに書

かされている。このあたりで、説明はあるか。山中委員、ここで、ますます社協の役割、市民の取組が期待されてくると思う。少し、今後に向けてでも構いません。社協として、考えていることとか、何かございましたら意見いただければと思う。

(山中委員)

社協としては、できていない地域に地区社協を設立していってもらいたいと思う。そして、市民のコーディネーターという方々に、より一層の地区社協と地区にふさわしい、地域の特色ある活動をしていただきたい。当然、行政と協働していくが、社協も独自に色々な方策を考えて、計画に取り組んでいきたいと思う。

(長谷中委員長)

今後、伺っているところによると、社協は、従来より、地域に根ざし、地域に入っの取組を丁寧になされてきた。この計画をより充実、促進していくために、活動計画をさらに策定することによって、計画推進の強化を図っていくと伺っている。是非今後、行政と社協で協働しながら、さらに社協としての取組の強化を図っていただければと思う。高橋委員、よろしいか。

(高橋委員)

まだ分からないのだが、社協さんが今までやっていただいて、これからも充実していくことは必要だと思う。今、策定している計画を市として、皆で取り組むというところは、社協だけにお任せしてしまっていていいのかと捉えられてしまい、市民のモチベーションが上がってこないのではないかと心配している。

(長谷中委員長)

社協とここで書いているが、協議会は色々な人の協議の場であると思う。そういう意味では、高橋委員がおっしゃったように、特に社協が強めになる。地域とのつながり、住民とのつながりをさらに強化を図りながら進めていって欲しいと思う。是非、そのあたりもお願いできればと思う。その他にいかがか。今回の計画の特長は、特に地域福祉分野と主に保健医療分野の一体化、強化を図って計画を策定している。浜島委員、何かあるか。

(浜島委員)

特に、介護・福祉と医療の連携ということに関して、医師としての意見をしっかり言っていきたい。

(長谷中委員)

特に地域包括ケアの仕組みで、福祉分野と医療分野の連携が大事なことだと思う。ますます、この計画を基盤にしながら強化を図っていただければと思う。その他にいかがか。

気づいたこと、推進のところで期待することでも構いません。福祉分野とともに、1回目の策定委員会でも伺った、子どもの貧困も凄く大事な部分。今回、生活困窮の計画も一体となりながら、あわせて、この計画とともに、この分野の計画の整合性を図りながら支援の強化を図っていく。スクールソーシャルワーカーの立場からで構いませんので、この計画に関して、今後期待すること等、いただければと思う。渡邊委員、お願いします。

(渡邊委員)

地域包括支援センターの方に見つけていただき、学校等とでお子さんの一時保護につながったと聞いた。学校だけでは見えない子どもの様子というのが、まだまだいっぱいあると思った。そう考えると、地域包括センターのようなところと、小中学校がもう少し連携できれば、それをつないでいけるような形の動きがどこかであればいいと思った。それから、最近本当に思うのは、中学生になると、非行の子はあまりいない。学校の廊下で固まって、という少し前の子たちはほぼいない。それに反して、学校に来なくなる子たちが多い。卒業のときになっても、進路が決められないお子さんがいると、そのまま年齢がいても家から出られないというお子さんを、年老いた方がみていくことになるのだろうと思う。学校が子どもたちにとっては全てという部分もある。学校の居心地の良さとか、勉強が分からなくなったときのシステムとか、学校が準備できる場所はあるのだが、どうしても学校という場で、周りにはまっていけないお子さんが何人かはいるということが事実としてあり、その子たちは学校のシステムにはまっていけないと、家の中に入ってしまう。家の中でしっかり安心・安全が守られていれば、そのうち回復するのだろうが、厳しい家もたくさんあるので、その辺のケアがこれからの課題なのかと思っている。地域の方に手伝っていただいたり、社協さんに用意していただく、色々なシステムに乗せていただくことが、これから必要なかと考えている。

(長谷中委員長)

渡邊委員がおっしゃったことで、55ページのところに、今回「伴走型支援体制の構築」という言葉を入れさせていただいた。色々なSOSを抱えているお子さんたちがいらっしゃる。支援がなかなか行き届かない子のための色々な居場所をつくっていくことを大切に受け止めた。というのは、一人ひとりがSOSや本音を言えるような場を、切れ目のない支援に向けてつくっていく必要性を、改めて、事務局とやりとりさせていただき、この伴走型支援体制の構築のところに思いを重ねていただいた。また、推進のところで何ができるのか、一緒に考えていきたいと思う。その他にいかがか。何かお気づきになったこと、今後のことでも構いません。今回、新型コロナの関係で、色んなところが休校になり、よ

り一層色々な方たちを大事にしていくということも受け止めた。繰り返しになるが、例えば今回、「健康」も非常に強化を図っている計画。その中で健康推進の取組が大事になってくると思うのだが、加藤委員、何か今後に期待することでも構いませんので、何かおっしゃっていただければと思う。

(加藤委員)

私たち健康推進委員は、各地区ごとに色々なことを、自治会様のご協力のもとやらせてもらっている。健康推進委員と言っても、子どもから大人までの内容を考え、それぞれ地区によって違うので、自治会のご協力のもとでやらせてもらうしかないのかと思っている。また、委員さんがみえる中で、色々な方たちの協力があると良いと思ったこともある。何か一緒に協力できるといいと思う。昨年度からここに入れさせてもらって、どんな会議なのかと思いながら聞かせてもらっていたので、これから何か一緒にやれることがあればと思っている。

(長谷中委員長)

すごく大事な指摘だと思う。地域に根ざした取組、今回の計画でも、今まで以上により身近な地域で活動を展開していこうということ。イメージとしては、できる限り身近な小学校区や中学校区。もう少し自治会等を含めて、身近なところで活動を展開していく。その中でまた、今後の推進のところで、委員の皆様はじめ、健康推進委員の取組がより図れることができるよう、何ができるか、この計画をもとに考えて行きたいと思う。

一方で、自治会も今後の役割として重要な機関になるのではないと思う。藤原委員、従来にも増して期待が大きいかもしれませんが、今後のことで意見、要望を聞かせていただいてよろしいか。

(藤原委員)

連合会としまして、92ページに関係機関等の連携ということで、各種委員会等があるが、先月21日に老人会の役員の皆さんと、自治会連合会の桑名市の役員会と合同で会議をした。今の老人会の実態はどうだということから始め、一番多いときで1万3,000人の会員がいる。今は8,800人ということで、三重県も桑名市も同じように右肩下がり、5年間ずつと減ってきた。今、70歳の人はまだまだ現役だということで、老人会には入りません。今、老人会の日常活動は随分たくさんあり、分担してやっている。60歳以上だと、老人会に入れるのだが、まだまだ70歳、75歳になっても元気で、入る必要がないという声がある。ネーミングを変えるということで今年4月頃が変わるのではないか。「藤原さんどうだ」ということで、「プラチナサロンはどうだ」と言ったら、「それもいいなあ」と。「倒れてからで

は遅いので、今のうちに入ったらどうだ」と元気なうちに入ってもらうための声かけ運動をしているとのことだった。桑名市は29地区あって、老人会が中止になっているところもある。その中で、また復活したらどうかと役員の方が一生懸命やっているが、そう簡単にかず、地道に活動をしているんだというのが役員の方の話だった。それで、自治会も積極的に声をかけてもらって、入ってもらう、ということ言われた。早速3月から動き出そうとしたのだが、今このような状態なので、4月にならないとだめかな、という話をしている。それと、私の地区では社会福祉協議会、民生委員、桑名市健康推進委員会、ボランティアの各種団体が8団体あり、その中で意見交換とか、14日の土曜日に見守り隊ということで会議を予定していたのだが、こういう状態のため延期になった。それで、コロナウイルスの問題が早く終わったらやるか、と役員同士で打ち合わせをしている。自治会活動も皆うつさないように、自分たちで頑張る、という話はしているが、今のところ自治会活動も県の活動も月2回くらいで自粛になっている。なかなか思うようにいかないというのがある。

(長谷中委員長)

凄く大事なことだと思う。自治会に頼りっぱなしではないか、ということもあった。藤原委員がおっしゃったように、少し広げて、自治会だけではなく、参加したくなるような地域の組織づくりって凄く大事ではないかという指摘だと思う。また、そのあたりのネーミングも含めて、ひょっとしたら老人会には、身寄りの無い方もいらっしゃるかもしれません。色んな人がいるので、参加したくなるような地域組織づくりというところで、社協の役割が大きいと思う。また、地区社協、地域の団体を含め、充実を図っていただければと思う。障害の分野も大事になってくる。細井委員、よろしくお願いします。

(細井委員)

今、藤原委員から話があったように、新型コロナウイルスが流行していて、私達の障害者の作品展、日帰り旅行、今回予定している総会も中止にした。収束すれば、また日を改めて、とは考えているが、今のところ予想が立たないのが現状。障害者団体も、私で6代目くらいの会長なのだが、私も結構な歳になった。もう交代を、と思っているのだが、なかなか引き受けてくれる人が現れてくれないのが現状。人から「好きでやっているのではないか」と言われないこともないのだが、やっぱり、新しい人が新しい考えでやっていかないと進歩もないのかなと思っている。今、障害者が約4千5、600人いる。以前は、何人入っているかということも、公になり、分かったのだが、今はプライバシーの問題がある。手帳は取るけれども、公表はしてもらえないということで、新しい会員を求めるのが非常

に難しい。ですから、役所の窓口で、新しく手帳を取得される方には、こういう会がありますよ、こんなことをやっていますよという案内を届くようにして、会員を募っているのだが、興味を示してもらって、入ってもらうことが段々少なくなってきた。入ったら一体何の得があるのかと聞かれると、なかなか答えづらい。「入らないと障害年金がもらえませんか」ということであれば皆入ってくれると思うのだが、メリットとなると、「障害者はやはりどこか弱いところがあるから、同じ行事をやるにしても、気が楽ですよ」ということは言えるのだが、やはりそういうことはあまり皆さんに感じていただけないので、これから障害者の会はなくなってしまうのではないかと本当に心配している。これは桑名に限らず、どこの市も同じような状況。だから困ったものだとは思っているが、どう打開していったらいいのか悩んでいる。私も相談員をやっているから、いろんな人から相談を受ける。障害者施設で家賃を払って、食事をつくってもらって住んでいる。1人は脊髄障害、もう1人は全盲。その2人が生活しているから、どうしてもヘルパーの力を借りないと生活ができない。そうするとだんだん難しくなってきた、ここまではできるけれど、ここから先ができないというような話をいただく。電話がかかってくるのだが、私もそこまで力があるわけではありませんから、お願いをすることでも、やはり壁があって、それ以上ができない。本当に2人は、こんなに苦労して頑張っているのに、なんでもう一歩踏み込んで協力してもらえないのか、という電話が毎日のようにかかる。私も、励ますので1日1回くらいは電話をしているのが今の状態。酸素吸入を外したら駄目になってしまうし、今、ウイルスにかかってしまったら亡くなってしまうこともある。そういう不安の中で生活しているので、介護保険の中でできない部分を、今回、社協さんが助けてくれたということで、非常に喜んでいる。そういう本当に困っている、これ以上どうしたらいいんだらうという人に最大の力を考えて、一緒に考えていってもらいたいと思っている。皆さんもそういう人と一緒に考えて欲しいと思っている。取り留めのない話になってしまったが、よろしくお願いします。

(長谷中委員長)

今までの策定委員会でも、大切な意見、指摘をいただいたと思う。制度の狭間の問題だと思う。公的なサポートでは行き届かない部分、見解があり、そこをどう感じていくのか。そういう思いを込めて、先ほど申した、伴走型支援が、特に49ページの一番下の見だしの、「生活支援体制の整備」が関係してくるかと思う。できる限り身近なところでの協議体の設置というのが出ている。地域の方、色んな課題をくみ上げながら解決を図っていこうというところ。受け止めて計画に反映させていただいた。当然だが、障害者の計画とも整合

性を担保した計画となっている。今後も是非、意見をいただければと思う。最後に、民生委員会さんに過大な負担を今まで強いてきたと反省もしている。今回、計画にも反映させていただいたが、是非、佐藤委員、民生委員の立場からでも結構なので、意見を願います。

(佐藤(美)委員)

民生委員として、高齢者が凄く多い。ですから、私達は見守り、通いの場で高齢者の方たちと交流をしている。でも、今は高齢者の方だけでなく、50歳代の引きこもりの方が多くて、私は何か相談を受けると、1人では対処ができないから駐在さんをお願いして、駐在さんと協力、つないでいくということをしている。そして、本当に、社協さんばかりに負担があるので、高橋委員がおっしゃったように、もう少し市の方も協力していただけるとありがたい。学校にも時々いくのだが、子どもさんは今、タブレットを使う。そうすると、頭を使わない。校長先生も「私も心配している」と言ってみえた。もっと外で遊ばせるとか、そういうことはできないのかな、と思った。取り留めのない話なのだが、今の私たちの立場からすると、子ども、障害者の方、高齢者の見守りをしっかりやっていこうと思っている。今日の計画はすごいと思ったが、社協さんの人数を増やしていただいたり、市の方がもう少し協力していただけるとありがたいと思う。

(長谷中委員)

以前の策定委員会でも伺った。民生委員の役割が大きい。民生委員さんだけをお願いするのではなく、色々な人とのつながりをつくって、活動しやすいようにやっていこうではないか。あわせて、今いただいたこと、しっかり受け止めた。社協と行政が一体となって、連携を強化して推進していくことが大事ではないか。事務局、今後また、市と社協との連携を強化して推進していただければと思う。佐藤委員、民生委員が活動を継続できるように、ということを計画に盛り込みましたので、今後ともよろしく願います。最後に何か、委員の皆様ございますか。では、今日いただきました意見も踏まえ、最終的に事務局の方で検討、修正をしていただき、市長に報告いただければと思う。よろしく願います。

(2) その他

(事務局)

広報くわな等で案内した、3月15日の桑名市地域福祉計画全体市民会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1部、2部、3部とあるうちの、1部「第3期地域福祉計画市民会議の各部会及び委員会の活動報告」及び第3部「年間の活動まとめ」は延期

とさせていただきます、第2部で予定しておりました、林家木久蔵さんを招いての講演会につきましては中止という形を取ることを決定させていただきました。また、状況が変わったら、第1部と第3部については日程を考えていくことになる。延期となった、第3期地域福祉計画の活動報告と、今回策定している、地域福祉保健計画の周知・啓発も合わせて、全体市民会議を開催していきたいと思っている。開催については、改めて広報やホームページで周知をしていきたいと思っているので、その際には皆様の周りの方へお声を掛け等のご協力をいただきたいと思います。よろしく願います。

(長谷中委員長)

予定していたものを中止、延期をして、今後、検討していく。特に、この計画の資料でも追加された、評価を大事にしながら、色んな人に活動報告をしながら、日々改善していくことになった。また、この計画を含め、活動していき、周知していただければと思うのでよろしく願います。それでは、予定していた議事を終了する。

3. 閉会

(保健福祉部長挨拶)

今回、昨年2月に始めて第1回の会議を開催してから皆様には計5回のご審議をいただき、それぞれのお立場、日頃の活動をもとに様々な意見、考え、思いを込めていただいた。それをできるだけこの計画に反映させていただこうということで、今日、最終的な案をお示しした。本日も色々な意見をいただいて、最終的に事務局の方で組み上げをさせていただき、先ほど委員長からありましたとおり、市長にあげていこうと思っている。最終段階になるにあたり、本当に皆さんにご理解、ご協力いただいて、進めてこられたことを改めて感謝申し上げたい。会議の中でも言っていたが、新型コロナウイルス感染症対策ということで、本日この会議の進め方という中で、時間の短縮にご協力いただき、その中で多くの意見をいただき、協議していただいたと感じている。最終的に計画を策定し、基本理念の「全員参加型で課題解決～みんなが はぐくみ つくる くわなのまち～」を十分踏まえて、今後、安心して暮らせる地域づくりのために、進捗管理、推進体制を大事にしながら進めていきたい。事務局としてもその辺りを十分踏まえてこれから進めて参りたいと思っているので、皆様にご協力をよろしく願いたいと思う。本当に長い期間ありがとうございます。私からのお礼の挨拶とさせていただきます。

(長谷中委員長挨拶)

皆様、昨年の2月から5回にわたって、意見賜り、ありがとうございます。無事本日、

策定することができた。厚く感謝申し上げます。今回の計画はつくるだけではなく、今後進めていくことが大事。東日本大震災、あるいは今回の新型コロナウイルス感染症から、有事の際には行政や民間、そして住民が垣根を越えることが大事だということを改めて教えていただいた。今後、この計画に関しても、基本理念にもある、これまでの計画と同じく、行政、社協がより一体となりながら、連携を強化しながら進めていく。それとともに、その中で垣根を越えた色々なネットワークを形成しながら、計画の理念である、「みんながはぐぐみ つくる くわなのまち」を具体化していただけるようお願いしたいと思う。

最後になるが、策定委員の皆様はもちろんだが、計画の取りまとめに向けて、市の皆さん、全庁を挙げて、色んな方が横断的に取りまとめていただいた。また、あわせて今回の計画では社協さんも一体になりながら計画と一緒に策定していただいた。特に社協さんは計画の重要な要素である、活動を取り組まれている市民の方の声を拾い上げていくことを丁寧にいただいた。また、今回の計画の策定に向けて市民会議の皆様から直接的な、すごく貴重な意見を賜り、反映させていただいた。さらに、この桑名の計画、従来の計画を共に策定してくださり、今までの計画の思いを丁寧に反映してくださった、エディケーションの大野さんをはじめ、皆様一人ひとりに感謝を申し上げて挨拶とさせていただきます。

以上